



フルーツ・シャトー

NO.38

平成 25 年 11 月号

主な今号の記事

フルーツ・シャトーよいち夏祭り

インタビュー 中学生の職場体験

東日本大震災被災者支援活動への職員派遣に感謝状

ふまねっと人気です

地域シリーズ⑥ 余市町食生活改善推進委員会

Let's ふれあい農園



フルーツ・シャトーよいち 夏祭り



雨ニモマケズ

雨のスタートだって、
なんのその。

写真右上：開会直前に降雨のため急きょ本館ホールからスタート

その後、雨は上がり日が差しましたが、会場のあちこちに大きな水たまりが残りました。

平成25年8月24日、毎年恒例の『夏祭り』を開催しました。本荘施設長から「今年度は地域の方と子供たちと入居者が楽しめるイベントとしたい」との話を受けて、夏祭り実行委員会はその方向で進めていきました。今年は例年と異なり、開始時間を15時からとし、最も暑くなる時間を避けての実施となりました。地域住民の方々への案内ですが、共栄区会・八幡区会の町内会長様の了承を得て、町内の回覧板にポスターを入れさせて頂きました。その他のPR方法として、ポスター掲示を共栄区会・八幡区会のコンビニエンスストア・スーパーをはじめ協会病院・薬局に依頼しましたが、快く回覧及び掲示を引き受けて頂きました。

今年度も地域の方々等多くの方が参加される事を予想し昨年同様に外会場・中庭会場・施設内会場を設営しました。例年通り浴衣を着られる職員には率先してお願いし、今年に入居者や参加者にも浴衣を着てほしいと考え、職員は面会時にご家族への呼び掛けも積極的に行っていました。

委員会ではお祭りの雰囲気は伝わるよう甚平で揃え、一目で夏祭り実行委員と分かるように柄も揃えてみました。模擬店は今年度も職員に参加を募って行われましたが、開始時間が15時となる為、メニューはスイーツ系が入るよう提案し、クレープ・チョコバナナ・ポテトルネードを加え、お祭り定番メニューの焼き鳥・焼きそば・たこ焼き・わた飴等の他にきゅうり一本漬け・ビール・生ジュース・かき氷・ゲーム3店舗の計13店舗の出店となりました。今年は模擬店投票の他にスタンプラリーの実施もあり、来客者に配布した模擬店投票用紙の裏に各13店舗名が記載されており、その中で5店舗利用された先着50名様に景品として野菜・くだもの及び模擬店無料券のどちらかを選んで頂きました。夏祭り委員会は約1か月半前から、皆様に楽しんでいただけるように準備を進めてきましたが、一番の不安は天候の問題でした。天気予報を見ながら雨天用の準備も行いながらも、委員会一同誰もが当日まで「雨は降らない、大丈夫」と祈るような気持ちでした。

夏祭り当日の天気予報は晴れのち雨。不安なまま会場設営が行われました。開始時刻が近づくに連れて雨が降ってきてしまい、室内で、本荘特養施設長・石川家族会会長の挨拶をかわきりに、夏祭りが始まりました。祈りが通じたのかその後に雨も上がり、各模擬店には長い列ができて、この店舗も好評でした。スタンプラリーを楽しむ来客者の様子、5店舗のスタンプが集まり嬉しそうに景品を受け取っている来客者の姿がありました。



右：北海ソーラン太鼓少年団による演奏が行われました。（当初、屋外の予定でしたが、雨の為急きよ本館ホールとなりました）

毎年、開催される「北海ソーラン祭り」では正調ソーラン沖揚げ音頭とともにメインアトラクションとして披露されています。

左：初の試みの流しソーメン。子供達や入居者の笑顔で溢れた。

回覧板やポスター掲示のご協力を頂いた影響か子供達の姿が多数見られていました。恒例の盆踊りがボランティアとして定期的に来て下さる「舞踊クラブ」の木村先生を先頭に始まりました。利用者・ご家族様・お子様・ボランティアの皆様に踊っていただきました。踊り終えた頃に再度雨が降り、途中一時中断となりました。余興のため外部よりお招きしました北海ソーラン太鼓少年団による「北海ソーラン太鼓」は室内で行われることになりましたが、室内での太鼓は施設内全体に音が豪快に鳴り響き、子供達が元氣よく太鼓をたたき姿は圧巻で、皆が感動していました。

最終イベントは初の挑戦である流しソーメン実施と毎年恒例の農産品バザーでした。流しソーメンでは子供達や入居者の楽しんでいる姿を見ることが出来き、行事委員も大変嬉しかったです。農産品バザーでは、今年も地域の皆様から、メロン・プラム・なすび・いんげん・かぼちゃ・トマト等たくさんの農産品を提供していただき、本当に感謝しております。

今年度、夏祭り委員会では「盆踊りの音色と太鼓を見聞きしながら、模擬店での飲食・ゲームやバザーでの買い物を楽しんでいただき、夏の風物詩を味わっていただく。」をテーマとしました。天候には恵まれずに慌ただしい夏祭りでしたが、皆様が笑顔で楽しんでいる様子を見ることができましたので、目標は達成できたと委員会一同感謝しております。ご参加頂いた、入居者・ご家族・ボランティア・地域の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

何事も経験也



中学生から見た福祉とは？



余市町立東中学校、西中学校、旭中学校の生徒(延べ21名)が6月から10月にかけて、職業体験のために当施設に来られました。これから将来を担う中学生に福祉についてのインタビューをしました。

—自分が思っていたイメージと実際に来て見て違いはありましたか？

生徒 自分の親が同じような仕事をしていた、なんとなく施設のことは見たことはありますが、実際に仕事を体験してみても、イメージが変わりました。暗かったイメージが明るくなりました。家族のような感じを受けました。

生徒 1日目の食事は、お膳になっただけで病院のご飯のように感じましたが、2日目のユニットの食事を見たときに家のようなイメージを持った。入居者さんが過ごしやすいように感じました。

生徒 両親が福祉の仕事をしていて、「大変だ」と言っているのを聞くがその気持ちが良く分かりました。
生徒 介護は全部手伝うものだと思うっていたが、自分で出来ることは自分で行ってもらっているのを見て勉強になりました。

〜職員から〜 人が暮らす場所ですから、職員も環境も明るい方がいいです。当施設では、天窓を設けていて出来るだけ多くの光が入るような作りになっています。職員も比較的に明るい？です。

出来るだけ利用者の方の生活動作等で出来ない部分のみ支援しています。できることはいつまでも出来る自分でいたい はずです。

—介護職員の仕事を見て、どう思いましたか？

生徒 職員が自分の祖父母のようにやさしく声を掛けていて、家族に接しているように感じられました。

生徒 プロだなと思いました。
生徒 認知症の人と話しているのを見て、話している様子が普通の人と変わらないように対応していました。自分も同じようにしたら、相手の入居者が認知症であることを忘れて普通に話すことができました。
生徒 この仕事に就きたいと思った。高齢者と接して楽しかったです。

生徒 やさしさの塊だと思いました。一人ひとりの入居者のことを把握しているところがすごい。

生徒 全神経を使って働いていると思いました。

〜職員から〜 わたしたちはプロです。介護技術も学んでいますし、認知症の方のかかわり方も知っています。

思いやりの気持ちは介護には欠かせないと思います。高齢になっても障害があっても誰でも幸せになりたいし、安心して楽しく暮らしたいはずです。その思いを実現に繋げようとするのが私たち職員の役割です。



被災者のお年寄りが今回の震災を俳句にしたためてくださいました。未曾有の大災害に被災した方々の明るくて強く、そして自分らしく生きて行こうとされているひたむきな姿にふれることが出来、支援派遣された私たちが新たな希望を頂いたような気がしました。

東日本大震災被災者支援活動への 職員派遣に感謝状

～被災地での活動を評価される～



平成 25 年 3 月 11 日付で厚生労働大臣から感謝状が贈られました

震災の爪あとが生々しく残る平成 23 年 5 月・平成 24 年 2 月にかけて宮城県仙台市、名取市を中心に老人福祉施設等で高齢の被災者の支援活動のため合計 10 名の職員が派遣されました。

仙台市の福祉避難所での支援活動では、津波で自宅を失った方や地震で家が損壊した方等の高齢者が避難されていました。避難所内は間仕切りされておらず、プライバシーな空間は無く、ベッドとテーブルが置いてあるだけでし

た。名取市の避難所は、津波被害を受けた隣の養護老人ホームからの避難者を受け入れている養護老人ホームでした。被災からの時間を追うごとに生活環境も整いつつあり、名取市の避難所では段ボール製の簡易パーテーションによって 4 畳程のプライバシー空間も確保されていました。

主な支援内容はトイレ誘導や食事の準備、コミュニケーション、洗濯等、身の回り支援を中心に行わせていただきました。仮設住宅

や転居先の住宅の確保が進み、避難所を出て、在宅生活を送らなければならぬ人達もいらつしやる為、避難所だけの支援だけでなく、自宅に戻ってからの生活の事も考えながら支援しなければならぬ難しさもありました。

同じ場所で過ごすことの多い被災者のために、フルーツ・シャトーよりいちで行っているリハビリメニューを実践するなどしましたが、意欲的に取り組まれる方も多く、参加者にも好評だったため、次の派遣者に引き継ぎ、継続して行ってもらうことになりました。

避難者の多くが明るく振舞っているのが印象的でした。反面「逃げる途中で津波にのまれた人の助けを求める声でしたが、自分の身を守る事が精一杯で何も出来なかった。その声が徐々に遠くなり、やがて消えていった。その助けを呼ぶ声は今でも耳から離れなくてね」と話される方もおり、友人・知人や家族を亡くし、深い心の傷を負っている方も少なくありませんでした。

つらい記憶についての話も気丈にお話を聞かせてくださる被災者の姿がありました。また「今回の震災は悲しいことだが、こうやって避難所で全国からの支援者に出会えた事は幸せな事」と一期一会の尊さを教えていただきました。



ツドイ（集）ホールでのふまねっと教室の様子



皆さん、「ふまねっと運動」をご存じでしょうか。

高齢になるにしたがつて怖いのが、転倒して骨折し要介護に陥ることです。介護予防のため、仲間同士で楽しみながら歩行機能を改善する「ふまねっと運動」が、発祥地の北海道から全国に広がりつつあるようです。

「ふまねっと運動」とはNPO法人北海道地域健康づくり支援会ワンツースリーが研究開発を行っている50センチ四方の升目になった網目を踏まないように注意深く進みながら、リズムに合わせてステップを踏むだけという、筋力が弱ったお年寄りにも無理なく手軽にできる運動です。

ふまねっと余市支部の秋田さんが当施設に来園され、「平成24年に増設したツドイ（集）ホールで介護予防活動のふまねっとにより地域交流会を継続して行いたい」というお話をいただき、現在も進行中の活動です。

定期的に「ふまねっと運動」が行われていますが、特養の入居者の参加もあり、ふまねっと余市の皆様と共栄区会の方・特養入所者など、運動を兼ねた地域交流の会となっており、定着した会となっています。

当施設にお話を頂いた秋田さんは「ふまねっと運動の体や心への良い効果は、介護予防活動にも直結した活動であり、また手軽に楽しくできる運動です」と話されていました。



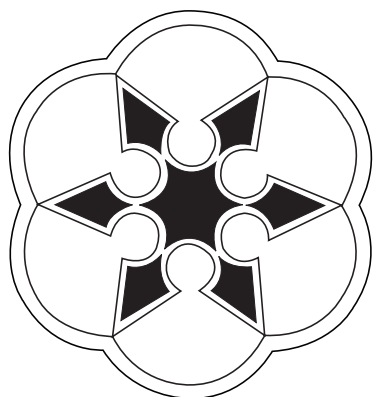
余市町食生活改善推進員会の皆様とフルーツ・シャトーよいちとの交流は平成3年の施設開設当初に施設側からの「地域との交流を図りたい」という依頼をきっかけに交流を持ったことに遡ります。現在も、もちつき大会、夏祭りの行事のボランティアとしてご参加いただいています。過去には、独居高齢者を対象とした老人配食事業で、フルーツ・シャトーの厨房で作った料理を容器に詰める作業を行っていたなどご協力を頂いています。平成13年からは当時の在宅介護支援センターが主催する65歳以上対象（現在は60歳以上）とした男性の料理教室で参加者へ調理指導やメニュー作成を引き受けて頂いたり、日比EPAで来日したフィリピン介護福祉士候補生と食を通しての交流会等、現在も色々な場面で当施設との交流が続いています。余市町食改善推進員会は、町民の健康づくりを応援するのを目的として、昭和52年に設立されてから今年で37年目になります。現在も積極的に会員の皆様が活動されており、余市町民の健康づくりの案内役として多岐にわたって尽力されています。



男性の料理教室での調理指導の様子
現在は年2回開催

地域 シリーズ ⑥

余市町食生活改善推進員会 ～町民の食と健康を考えて37年～



食生活改善推進員のシンボルマーク

昭和20年代の、食料が十分ではない栄養不足の中、家庭の主婦を対象に行われた栄養教室をきっかけに、健康問題に取り組むようになりました。昭和60年代に当時の厚生省の政策で組織化・国の補助事業となったことで養成が進められていきました。"私たちの健康は私たちの手"をスローガンに、全国1411市町村で17万人の会員が活動しています。平成24年度からは男性会員の加入が決定され、余市町でも男性会員が誕生しています。

Let's!

ふれあい農園



借りることができたふれあい農園の区画はとても広く、どの畑も苗を植えたばかりの状態では広々しています。



真夏の草取りです。

広々していた畑もすっかり背が伸びたとうきびやトマト等の野菜、そして雑草に覆われていました。汗をかきながらの草取り作業になりました。



11月には今シーズン最後の収穫となるだいこん、かぼちゃなどを収穫しました。

デイサービスセンターフ
ルーツ・シャトーよいちと
ぷらっと・よいち2事業所
共同で「高齢者ふれあい農
園事業・登市民農園（登町
1939番地1）」の農園
一区画17番を借ることとな
りました。それぞれ植える
苗や種の種類を2事業所で
検討して購入しました。

6月17日に、デイサービ
スとぷらっとの利用者様と
職員で苗と種を植えに行っ
て来ました。デイサービス
はカボチャ・ジャガイモ・
ししとう・ブロッコリー・
大根を、ぷらっとはミニト
マト・枝豆・とうもろこし
を植えました。

皆様慣れた手つきで畑を
耕し、苗を植え種を撒き、
最後に水を撒いて一時間程

で植え終わりました。「早
く大きくならないかな。今
から収穫が楽しみだね。」
と皆様笑顔で話されてお
りました。

その後は、デイサービ
スのクローバーデイ（17時
までのデイサービス）の行事
の一環として、ドライブが
てら利用者様と一緒に畑を
訪れて、雑草を取ったり水
を撒いたりして、秋の収穫
まで成長を見守ってきまし
た。

11月に利用者様と一緒に
だいこんとかぼちゃの収穫
をして今シーズンの農園を
終了しました。来年も、ふ
れあい農園で自然を満喫出
来るような行事を企画して
いきたいと思っています。



認知症とは、脳細胞に何らかの障害をおこしたために知的障害をはじめとして、人格の変化、言語の障害、行動の異常など日常生活行動が著しく低下した状態です。

体験全体を忘れて、年齢・人物・場所・日時がわからなくなつて、忘れてしまったことに自覚がなくなる。症状は進行するので病気になる。初期症状は、日常生活の様々なことに関心がなくなり動作が緩慢になってくる。最近の出来事を忘れたり、日時を間違え



たり、少し複雑な会話が難しくなつてきて、からだ全体から活気が消える。うつ気分やうつ状態との見分けが難しいこともあるので病院に受診に行くことが必要と思います。

初期に見出すことで治療的な取り組みで改善する例があったり、有酸素運動や食生活の改善や人との交流などで生活習慣を整える事で進行を防ぐことができるとの報告もあるので早期発見に勝るものはないと思います。

法人サイトのブログをご紹介します



<http://blog.fruit.or.jp/fruit/>

デイサービスセンター (高齢者総合福祉施設内のデイサービスセンターです)

フルーツ・シャトーよいち

<http://blog.fruit.or.jp/day/>

(余市駅前にある小さなデイサービスセンターです)

ぷらっとよいち

<http://blog.fruit.or.jp/day/>

よいち銀座 (余市町の銀座街あるデイサービスセンターです)

はくちょう

<http://blog.fruit.or.jp/day/>

グループホーム

フルーツ・シャトーよいち

(高齢者総合福祉施設内のグループホームです)

<http://blog.fruit.or.jp/group/>

とパステル

社会福祉法人よいち福祉会では、法人ホームページ (<http://www.fruit.or.jp>) にて、法人の様々な情報を発信しています。実はそのホームページの中に「ブログ」を開設しているのはご存知でしょうか？

ブログは特養・デイサービス等事業所ごとに分かれ、また同じ法人内施設のにき保育園のブログもこちらで見ることが出来ます。季節の行事、イベント食、日常のちよつと

したできごとを広報委員のメンバーが日々の業務の合間に綴っています。写真もたくさん載せていますので、当施設での生活のひとコマを見ることができると思います。

Face book と Twitter (災害等の緊急時を除き更新お知らせ以外のツイートは行いません) にも社会福祉法人よいち福祉会のアカウントがありますので、ご利用の方は一度覗いてみてください。

facebook



× よいち福祉会

twitter



@yoichi_sowelco

短い秋も終わり、本格的な冬を迎えようとしています。フルーツ・シャトーよいちでも大量の落ち葉の片づけ、網戸の収納、車のタイヤ交換や庭園の片づけなど外回りの冬支度がすっかり終わり、本格的な雪の到来を待つばかりです。

さて、今年の気象庁の向こう3カ月の予報では『例年よりも雪が多く寒い年となりそう』という予報がでており、予報通りなら3年連続の厳しい冬になりそうです。昨年のような停電や事故につながるような極端な暴風雪にみまわれないことを願うばかりです。

また、北海道内では例年よりも若干早くインフルエンザの流行も始まり、既に注意報レベルの自治体も出てきています。ノロウイルスについても同様に大規模に流行する恐れが専門家から指摘されており、本格的な感染症の流行期を迎えようとしています。

ご家族やご来園の皆様についても感染症予防のため、うがいや手洗いなどご協力をお願いいたします。



編集後記